

公益社団法人 第 30 回愛知県柔道整復師会少年少女柔道大会 第 10 回愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会

8 月 1 日 (日) 午前 9 時半から午後 2 時まで、半田市青山記念武道館大道場にて、第 30 回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年少女柔道大会・第 10 回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会が同日開催された。当初は 6 月 20 日 (日) に開催予定であったが、コロナ禍に伴った緊急事態宣言発令により中止となりましたが、関係者協議の結果により開催する運びとなりました。

開催に際し森川大会会長は挨拶にて「本来であれば、多くの来賓の方々をお招きし、観覧席には皆さんのお父さんお母さんが応援にかけつけてくれるところですが、ご承知の通りコロナ禍により無観客とさせていただきます」と、参加した選手や監督に謝意を述べるとともに「何よりも選手の皆さんがいつものように練習できていたかどうかがとても心配です。日頃から地域の接骨院の先生方に教えていただいた技を思いっきり出していただき、悔いが残らないよう、そして怪我のないように自分の持てる力をフルに発揮してこの大会に挑んでいただきたい」と述べた。

伊藤杏選手 (大石) の選手宣誓の後、最初に形競技会が開始。県下 8 支部からの代表選手により「投の形」が競われた。緊迫した静寂の中、柔道着の擦れる音、摺り足の音、そして受け身の音だけが道場に響く中、演武が進み、半田支部が優勝し 9 連覇を遂げた。



形競技

- 優勝 半田支部 松本・久綱ペア
2 位 大曾根支部 小村・塚原ペア
3 位 岡崎支部 作田・竹本ペア

形競技会の表彰式が終了した 11 時 20 分より県下 40 の道場に通う、小学 4 年生から 6 年生までの男女合計 139 名がエントリー (コロナ禍により、人数の縮小を図り、各団体、各学年、男女 1 人まで。但し前回大会で 3 位までに入賞した道場は、入賞した学年のみ上限 2 名まで出場可) し、6 会場で 1 試合ずつのトーナメント方式で試合が一斉に開始された。出場選手 2 人と、次の試合の選手のみ畳上に待機、他の選手は観覧席で待機と言うソーシャルディスタンスが取られ、試合の合間には試合上の畳の消毒と、徹底した感染予防対策が講じられ、日整大会出場選手の選考試合も含め、全ての試合が 12 時 40 分には終了した。



男子 4 年

- 優勝 吉田 空雅(大石)
2 位 藪本 慶多(半田)
3 位 榎本 雄琉(東海)
3 位 大掛 凌(山北)



男子 5 年

- 優勝 川満 冠汰(県武)
2 位 田中 成志朗(羽田野)
3 位 大岩 醒悟朗(大岩)
3 位 松本 匠平(半田)



男子 6 年

- 優勝 下地 琉仁(東海)
2 位 安江 優太郎(羽田野)
3 位 植園 壮志(緑)
3 位 加藤 準規(安城)



女子 4 年

- 優勝 吉田 唯良(山北)
2 位 嶋田 彩乃(羽田野)
3 位 林 つぼみ(六郷)
3 位 水田 絵麻(トヨタ)



女子 5 年

- 優勝 柴田 麻帆(羽田野)
2 位 山内 咲依(稲沢)
3 位 竹内 理望(大石)
3 位 小宅 彩楽(大府)



女子 6 年

- 優勝 伊藤 杏(大石)
2 位 植村 琴菜(トヨタ)
3 位 水越 結衣(春日井)
3 位 竹澤 陽菜(あおい)

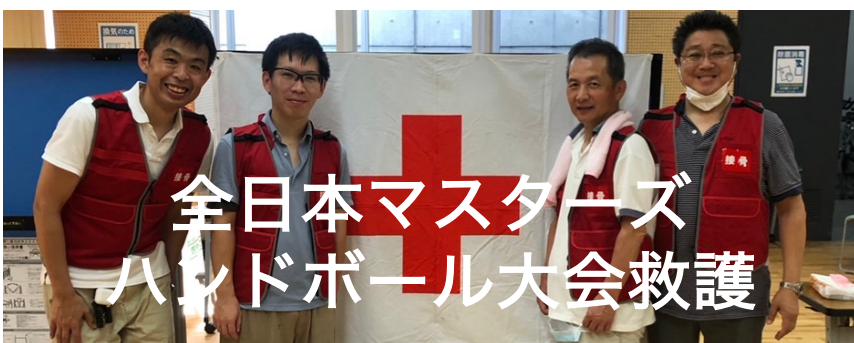


全国 出場選抜選手

- 先鋒 吉田 空雅(大石)
次鋒 田中 成志朗(羽田野)
中堅 川満 冠汰(県武)
副将 安江 優太郎(羽田野)
大将 下地 琉仁(東海)

緊急性のあるような大きな怪我はなかったが、今回の救護ブースには超音波観察装置が持ち込まれ、肩鎖関節を負傷したと思われる 4 年生女子の観察にも利用された。

今回は半田市での開催と言うことで、半田支部会員 10 人も補助員として参加していただき、役員、各部員、審判員と多くの会員の協力により、本大会も成功裏に終わった。(広報部)



全日本マスターズ ハンドボール大会救護

令和 3 年 8 月 7 日 (土) ~ 8 日 (日) 一宮市総合体育館にて第 29 回全日本マスターズハンドボール大会の会場救護を行った。

事業部より石川 真部員・樋渡 啓祐部員と井上 哲三会員・井原正晴会員・小野 文行会員・浅野 壽康会員・浅野 芳嘉会員・相羽悠平会員・事業部長 石川 益郎にて担当した。

救護室は広い多目的ホールを使用。寝台は距離を確保し 4 台設置。出入口をわけた導線にし、パーテーションにて仕切り。徹底したコロナ対策をして救護活動を臨みた。

1 日目 大会開始直後、52 才男性選手が左下腿部(下部)痛を訴えられ来所。理学所見・超音波画像観察にて左アキレス腱断裂と判断。シーネ固定し応急処置後、保険医療機関への受診を指示した。

大会 2 日目、最終試合が終わり救護室の片付けを始めた頃に、60 歳男性が車椅子にて来所。触診、徒手検査等の理学所見より左アキレス腱断裂と判断し、シーネ固定等の応急処置を実施した。

本大会はチーム数を減らし規模縮小型にて運営されていたので、例年と比較すると利用者の少ない活動となったが、「アキレス腱断裂に始まり、アキレス腱断裂で終わる」重傷者の多い救護となった。

陣中見舞いにて差し入れして頂いた小林副会長始め、中野支部長・一宮支部会員の先生方、ありがとうございました。また、ご協力頂いた諸先生方、猛暑の中お疲れ様でした。

(事業部)